

何で決まる

1. ナツササハマダラミバエ

粽(ちまき)の時期となり、ササが新葉を広げました。ササに限りませんが、葉の上に金緑色に輝く体が細長く脚の長い虫が目につくようになりました。翅に黒い斑紋があればマダラアシナガバエです。翅が透明で体がやや小さくて短く脚の長いアシナガバエの他種もいます。魚に集まるキンバエと同じ輝きです。この色は色素ではなく、タマムシのように体表の構造から反射した光の干渉によって生じるもので、構造色とよばれ、死んでも色は変わりません。



マダラアシナガバエ

アシナガバエはじっとしていますが、チマキザサの葉上に落ち着きのない虫が出現します。ウチワのような翅を立てたり寝かせたり、場所も葉の上を移動し、じっとしていません。おまけに翅に黒線が3本あるため非常に目立ちます。これがナツササハマダラミバエです。この行動は繁殖のためのディスプレイといわれています。2週間くらいの出現です。



ナツササハマダラミバエ

ミバエとは「実蠅」の意味で、果実などに産卵し、幼虫が内部を食害する小型のハエです。多くの種は人にとって無害ですが、チチュウカイミバエやミカンコミバエは多種の果実、果菜の栽培種に多大な損害を与えるため国際的に警戒

されている種です。東南アジアを生息域とするミカンコミバエは奄美大島以南に生息していましたが、経費約50億円と18年間をかけて1961年に根絶し、ミカンやウリ類などが栽培できるようになりました。海外旅行で果物類を持ち帰ることのできない理由は、このミバエを持ち込まないためです。

2. ハナイカダ

花が葉の上につくことで、変わった植物としてよく知られています。5月葉の主脈の中央に花が開きます。雌雄別株であり、雄花は1枚の葉に数個、中央にまとまってつきます。雌株では雌花が1個つくのが普通ですが、2~3個つく葉もあります。花がつかない株は雌雄がわかりません。開花後、雄花は落ちてしましますが、雌花は果実がとまり秋には黒く熟します。中には種子が何個もあり、凹凸で表面から数がわかるものもあります。



雄花

1本の雌株でも葉に雌花がつかないものから3個つくものまでいろいろあります。調べてみたところ表のような結果でした。この違いはどこからきているのでしょうか。今年伸びた枝の先端に近いほど葉の大きさは小さく、小さい葉には花がついていません。大きい葉の花数が多いようにみえますが必ずしもそうでありません。上に高木がない場所の結実数が多い傾向がありますので、展葉後の光合成物質がその葉で花芽形成に使われると考えてよさそうです。

雌株	1葉の果実数		
	1	2	3
A	122	9	3
B	90	14	10
C	40	9	10
D	120	0	0
E	28	0	0
F	6	0	0

1葉の果実数 1~3

(倉吉博物館専門委員 國本洗紀 2025)